

第4期中期目標・中期計画（地域社会との連携、
国際交流、研究活動）に関する自己点検・評価書

令和6年9月
和歌山大学

はじめに

地域社会との連携、国際交流、研究活動については、第4期（令和4～9年度）中期目標・中期計画のうち対応する事項の令和4，5年度実施状況について自己点検・評価を行った。評価は次の4段階で行っている。

Ⅳ・・・取組予定を上回って実施している

Ⅲ・・・取組予定を十分に実施している

Ⅱ・・・取組予定を十分には実施していない

Ⅰ・・・取組予定を実施していない

（新型コロナウイルス感染症の影響等、やむを得ない理由により取組予定を実施できなかったが、代替措置等を行った場合はⅢとしている。）

目次

・地域社会との連携・・・・・・・・1

第4期中期目標・中期計画では、「Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創」が対応する。

・国際交流・・・・・・・・・・5

第4期中期目標・中期計画では、「Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育」の一部が対応する。

・研究活動・・・・・・・・・・11

第4期中期目標・中期計画では、「Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項 3 研究」が対応する。

【地域社会との連携】

I 教育研究の質の向上に関する事項

1 社会との共創

<中期目標>

【1】人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。

<中期計画>

【1-1】人口減少が急速に進む地域における人的・地理的制約の下で、教育・研究を司る知的活動の中核として、少子高齢化や国際化、情報通信の進展などの急激な社会変化に伴って生じる複雑化・多様化・高度化する地域課題の解決に地域と協働して取り組み、成果の社会実装を通じて地域の価値を共創する。特に、複数の地域拠点を結ぶネットワーク型の連携体制の構築、地域の自治体、企業及び経済団体との連携・協力協定の締結促進、協議会の設置及び参加、地域人材の活用等により、地域課題の把握共有と価値共創を進める。

<評価指標>

【1-1-1】自治体、企業及び経済団体との連携・協力協定を 30 件締結する。（第 4 期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己評価	定量的評価指標実績
令和 4 年度	和歌山県内・泉州地域の自治体や企業、経済団体の 10 団体／社以上と協議し、4 団体／社と連携協定締結に向けた協議体を発足させる。 和歌山県内・泉州地域の自治体や企業・経済団体と連携・協力協定を 4 件締結する。	10 団体と協議を行い、令和 4 年 6 月 8 日に自衛隊和歌山地方協力本部と「連携協力に関する協定」、同年 7 月 15 日に貝塚市と「連携協力に関する包括協定」、令和 5 年 1 月 19 日に串本町と「連携協力に関する包括協定」、同年 2 月 24 日に印南町と「連携協力に関する包括協定」をそれぞれ締結し、年度内に 4 団体との間で連携協定を締結した。また、令和 5 年度の締結に向けて、和歌山県内 4 市町（紀の川市、すさみ町、日高川町、白浜町）、泉州地域 1 市（泉南市）、合計	Ⅲ	令和 4 年度 4 件 令和 5 年度 10 件 計 14 件

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
		5 団体と協定締結に向けた協議体を発足させ、取組予定の 4 団体／社を上回った。 (https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/kiipius-agreement-list.html)		
令和 5 年度	和歌山県内・泉州地域の自治体や企業、経済団体の 10 団体／社以上と協議し、5 団体／社と連携協定締結に向けた協議体を発足させる。 和歌山県内・泉州地域の自治体や企業・経済団体と連携・協力協定を 4 件締結する。	令和 5 年度に協定を締結した下記 10 団体／社のほか、令和 6 年度の締結に向けて 9 団体（由良町、和歌山財務事務所、すさみ町、湯浅町、田尻町、白浜町、那智勝浦町、泉佐野市、高野町）と協議体を発足した。 和歌山県内・泉州地域の自治体や企業・経済団体との連携・協力協定締結件数は下記のとおり 10 件で、評価指標に係る取組予定の 4 件を大きく上回った。 ・(株)アワーズ (R5. 6. 22) ・かつらぎ町 (R5. 11. 21) ・有田川町 (R5. 12. 4) ・紀の川市 (R6. 2. 5) ・和歌山県経済団体 5 団体 (R6. 2. 26) ・北山村 (R6. 2. 29)	IV	

<評価指標>

【1-1-2】自治体協定等に基づき、地域と共創して地域課題解決に取り組む「社会実装教育研究プロジェクト」（試行的な取組を含む）を 30 件以上実施する。（第 4 期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和4年度	地域の自治体や企業等と共創型の地域課題解決に取り組む「社会実装教育研究プロジェクト」（試行的な取組を含む）を5プロジェクト以上実施する。	「地域資源循環プロジェクト」、「住民と行政を繋ぐ事前復興まちづくりプロジェクト」、「祭り／祭礼を中心とした地域文化財の保存と活用を通じた歴史・文化の継承事業プロジェクト」、「外国につながる子どもへの教育支援共創プロジェクト」、「熊野古道プロジェクト」の合計5プロジェクトを実施した。	Ⅲ	令和4年度 5件 令和5年度 5件 計 10件
令和5年度	地域の自治体や企業等と共創型の地域課題解決に取り組む「社会実装教育研究プロジェクト」（試行的な取組を含む）を5プロジェクト以上実施する。また、社会実装教育研究プロジェクトの成果やアウトカムについて、外部有識者を軸とする意見交換・討議の場を開催する。	次の5つのプロジェクトを新規に実施した。 ・「わかやまブランド」マーケティングリサーチプロジェクト ・関係人口創出プロジェクト（食農） ・オーラルヒストリー・アーカイブズの構築 ・観光地防災プロジェクト ・宇宙利用を含むIoT事業 また、令和4年度より実施している5件のプロジェクトの成果等について、それぞれアドバイザーボード会議などで外部有識者との意見交換を行った。	Ⅲ	

<評価指標>

【1-1-3】自治体や企業等と共創した地域を志向する科目群を設け、毎年度2科目新設する。

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和４年度	自治体や企業等と共創した地域を志向する科目群創設に向けて学内検討を進め、同科目を２科目開講する。	自治体・商工会議所等から構成されている「きのくに活性化センター」からの寄附講義として「南紀熊野の地域資源研究」を開講した。また、令和４年度に連携協定を締結した自衛隊和歌山地方協力本部、すでに連携協定を締結していた日本財団ボランティアセンター及び和歌山県社会福祉協議会と共創して「災害ボランティア学」を開講した。上記のとおり、自治体や企業等と共創した地域を志向する科目を２科目開講した。	Ⅲ	令和４年度 ２科目 令和５年度 ３科目 計 ５科目
令和５年度	自治体や企業等と共創した地域を志向する科目を２科目開講する。	JR 西日本と共創した「災害時の交通を考える」、第一生命保険（株）和歌山支社の寄附講義「SDGｓ論」、JAわかやまの寄附講義「食と農のこれからを考える」の計３科目を開講し、取組予定の２件を上回った。	Ⅳ	

<評価指標>

【1-1-4】自治体、企業等から派遣され、地域課題の解決に共に取り組む価値共創研究員を毎年度３人受け入れる。

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和４年度	自治体・企業等から派遣される価値共創研究員を３人受け入れる。	海南市、南海電気鉄道（株）、和歌山県社会福祉協議会からそれぞれ１人、合計３人を価値共創研究員として受け入れた。	Ⅲ	令和４年度 ３人 令和５年度 ３人 計 ６人

年度	取組予定	実施状況	自己評価	定量的評価指標実績
令和5年度	自治体・企業等から派遣される価値共創研究員を3人受け入れる。	地域課題の解決に取り組むため、価値共創研究員として和歌山県社会福祉協議会、紀美野町及び（株）秋津野から計3人を受け入れた。	Ⅲ	

【国際交流】

I 教育研究の質の向上に関する事項

2 教育

<中期目標>

【7】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。

<中期計画>

【7-1】キャンパスの国際化に向けて、ICTを活用した国際的な教育連携を進めるために大学間交流協定の拡大を図り、海外の大学とICTを活用した共同講座等を開発・実施し、海外の大学生の日本への留学を促進する。さらに本学の留学生OB・OGのネットワーク拠点を海外で形成するとともに、留学生OB・OGと連携した留学説明会を開催するなど留学生の受入を推進する体制を整備する。

<評価指標>

【7-1-1】新規に大学間交流協定を20大学と締結する。（第4期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己評価	定量的評価指標実績
令和4年度	中央アジア（キルギス・タジキスタン・トルクメニスタン等）の大学と連携協定を3～4件締結する。	令和4年5月にテープサトリ・ラチャパット大学（タイ）、同年7月にクラグイエヴァツ大学（セルビア）、同年9月に東サラエボ大学（ボスニア・ヘルツェゴビナ）、同年10月に東洋学大学（ウズベキスタン）、同年11月に公州大学（韓国）、令和5年2月にハノイ大	Ⅳ	令和4年度 9大学 令和5年度 9大学 計 18大学

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
		学、ベトナム外交学院大学、フェニカ大学、ドンア大学（いずれもベトナム）の合計9大学と新規連携協定を締結し、取組予定の3～4件を上回った。		
令和5年度	東南アジア（ブルネイ・マレーシア・インドネシア）の大学と連携協定を3～4件締結する。	下記の9大学等と新規に連携協定を締結し、取組予定の3～4件を大きく上回った。 ・サンフランシスコ州立大学（アメリカ） ・モンゴルコーセン技術カレッジ ・ブラウイジャヤ国立大学（インドネシア） ・チェンマイ大学（タイ） ・ダナン大学（ベトナム） ・i-CATS 大学（マレーシア） ・サラワク大学（マレーシア） ・モンゴル科学技術大学附属高専（モンゴル） ・デュズジェ大学（トルコ） また、令和6年度の連携協定締結に向けて、チュニスエルマナール大学（チュニジア）との手続を進めた。	Ⅳ	

<評価指標>

【7-1-2】 ICT を活用した共同講座を新たに6件開発し、実施する。（第4期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和4年度	ウズベキスタン・国立世界言語大学と ICT を活用した共同講座を開発し、実施する。	協定校のウズベキスタン・国立世界言語大学と ICT を活用した新たな共同講座を開発し、令和4年6月14日、	Ⅲ	令和4年度 1件 令和5年度 2件

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
		21, 28日, 7月12日に実施した。共同講座は、これまで両大学で行ってきたオンラインによる合同授業の実績を基に、双方の大学の留学生が希望する日本文化—柔道、着物、落語、日本食—について、実技・実演を盛り込み、実施した。ウズベキスタン・国立世界言語大学で日本語を学ぶ学生22名、日本語教員5名と和歌山大学の「日本事情」受講生13名が共同講座に参加した。		計 3件
令和5年度	インドネシア・ガジャマダ大学とICTを活用した共同講座を開発し、実施する。	インドネシアのガジャマダ大学のSekolah Vokasi教員と共同講座「国際協力実践演習Ⅰ」を実施した。本授業では、Zoom、Padlet、LINEなどのICTを活用したオンラインPBL型学習を計5回(令和5年10月27日, 11月10日, 12月1, 22日, 令和6年1月19日)実施し、ガジャマダ大学生12名と本学学生9名が受講した。その後、令和6年3月に本学学生9名がガジャマダ大学においてフィールドワーク等を行った。 また、ベトナムのドンア大学と「日本語日本文化研究K」の授業を、ICTを活用して令和6年1月30日に共同で実施し、ドンア大学生6名と本学学生7名が受講した。プログラムの実施にあたっては、本学教員が事前にドンア大学を訪問し、協議を行った。 上記のとおりICTを活用した共同講座を2件実施し、取組予定の1件を上回った。	Ⅳ	

<評価指標>

【7-1-3】留学生 OB・OG のネットワークを 6 拠点整備する。(第 4 期中期目標期間中 合計)

年度	取組予定	実施状況	自己評価	定量的評価指標実績
令和 4 年度	中国（上海）に留学生 OB・OG のネットワーク拠点を整備する。	留学生 OB・OG のネットワーク拠点整備に向け、本学への留学経験者の連絡先を収集するとともに、SNS（インスタグラム）による情報発信を開始した。 また、留学生 OB・OG ネットワークの各拠点の中心となるアンバサダーを、中国南部（上海近郊地区）において選出した。 さらに、学長のベトナム訪問に合わせ、ベトナムにおいて国際同窓ネットワークを結成し、結成式を行う（13 名出席）とともにアンバサダーを選出することにより、ベトナムにおける留学生 OB・OG ネットワークの拠点整備を行った。	III	令和 4 年度 1 拠点 令和 5 年度 2 拠点 計 3 拠点
令和 5 年度	中国（北部）及び中国（南部）に留学生 OB・OG のネットワーク拠点を整備する。	中国（北部）に位置する「東北財経大学」を拠点とする国際同窓ネットワークを整備した。令和 6 年 2 月に日本語学科長が来学した際に、同ネットワークの結成セレモニーを行い、アンバサダーを選出した。 中国（南部）に位置する「浙江師範大学」を拠点とする国際同窓ネットワークを整備した。令和 4 年度にアンバサダーに就任した本学留学経験者が令和 5 年 10 月に来学した際に、同大学の現役留学生 4 名が参加し、同ネットワークの結成セレモニーを行った。	III	

<評価指標>

【7-1-4】留学生 OB・OG と連携した留学説明会を世界 6 か所で実施する。(第 4 期中期目標期間中 合計)

年度	取組予定	実施状況	自己評価	定量的評価指標実績
令和 4 年度	中国(上海)において留学説明会を開催し、留学生 OB・OG による留学体験談のほか、奨学金や留学生宿舎などに関する説明を行う。	令和 4 年 9 月 8 日、浙江師範大学(中国)に対する留学説明会をオンラインで開催し、大学生 38 名の参加があった。留学説明会では、留学制度、留学生活、授業科目について説明を行うとともに、浙江師範大学から和歌山大学への日本語・日本文化研修留学生の留学体験談を紹介した。	Ⅲ	令和 4 年度 1 か所 令和 5 年度 1 か所 計 2 か所
令和 5 年度	中国(北部)において留学説明会を開催し、留学生 OB・OG による留学体験談のほか、奨学金や留学生宿舎などに関する説明を行う。	新型コロナウイルス感染症等の事情により、中国(北部)において留学説明会を開催できなかったが、令和 5 年 11 月 25、26 日にベトナム(ホーチミン、ハノイ)で開催した「JASSO2023 年度日本留学フェア」に和歌山大学ブースを出展した。ホーチミン会場の本学ブースでは、ベトナム国際同窓ネットワークのアンバサダーである Tran Thi Kim Loan 氏が通訳、留学体験談を交えた本学の紹介、入試制度の説明等を行った。	Ⅲ	

<中期計画>

【7-2】留学生に対して、これまで実施してきた短期交流型プログラムをさらに強化し、和歌山県固有の世界遺産等に触れながらの日本体験となるプログラムを地域の協力のもと実施する。

<評価指標>

【7-2-1】地域と連携した短期交流型プログラムを毎年度実施し、第 4 期中期目標期間中の参加者として延べ 120 名を目指す。

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和4年度	和歌山県地域と連携した短期交流型プログラムを実施し、日本語教育が実施されている協定大学13大学を中心に広く参加者を募集することにより、年間20名の参加を目指す。	短期交流型プログラムを通常実施する令和4年7～8月は、コロナ水際対策により日本入国が厳しかったため、短期交流型プログラムを実施できなかった。そのため、翌年度の参加者増を目指し、令和4年8月1～5日の5日間でオンラインによるプログラムを実施した。プログラムでは、日本語、日本文化、和歌山の歴史、熊野古道についての講義を実施し、8か国、12大学、115名の申込があり、1日平均約80名が参加した。 翌年度は和歌山県での開催を予定している。	Ⅲ	【プログラム実施】 令和4年度 0回 令和5年度 2回 計 2回 【参加者数】 令和4年度 0名 令和5年度 18名 計 18名
令和5年度	和歌山県地域と連携した短期交流型プログラムを実施し、前年度締結した新規の協定大学を対象に加え広く参加者を募集することにより、年間20名の参加を目指す。	令和5年5月に協定大学であるブリッジウォーター州立大学の学生を対象とするプログラムを実施し、9名の学生が参加した。同年7月に複数の協定大学の学生を対象とするプログラムを実施し、9名（オーストラリア2名、中国4名、ベトナム3名）の学生が参加した。参加者は全体で20名に達しなかったものの、日本語・日本文化を中心とした講義、高野町、高野山大学と連携し、高野山を中心としたフィールドワークを実施した。 令和6年2月に実施したオンラインによるプログラムは30名が修了しており、令和6年度の参加者増加に資する機会になった。	Ⅱ	

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
		令和4, 5年度に目標参加者数を達成できなかったことを考慮し、令和6年度以降の目標参加者数を毎年26名に変更することにより、第4期中期目標期間中に延べ参加者数120名を目指す。		

【研究活動】

I 教育研究の質の向上に関する事項

3 研究

<中期目標>

【9】地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。

<中期計画>

【9-1】社会からの負託に応え、本学の蓄積された知を最大限に活用し、イノベーション創出へとつなげるため、複数の教員によるニーズドリブン型の研究プロジェクトを構築し、地域と一体となって共創研究・事業に取り組み、地域の課題解決、和歌山圏域の産業の発展に貢献する。

また、和歌山圏域に、新たな産業創出につながる知的価値を共創できる人材を育成するために、全学的にアントレプレナーシップ教育を地元経済団体・組織などと連携して取り組み、大学発ベンチャーや社会的企業を創出する。

<評価指標>

【9-1-1】ニーズドリブン型の研究プロジェクトを3件構築する。（第4期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和4年度	事業分野別交流会や企業訪問等を通じ収集したニーズを基に、研究プロジェクトを1件程度構築し、人件費にも使用できる学内大型研究予算（1件、10,000千	学内大型研究予算「ニーズドリブン型研究支援プロジェクト」において、「DNNの組み込み実装に基づく産業・教育ニーズに応えるAI・機械学習技術の開発（代	Ⅲ	令和4年度 1件 令和5年度 1件 (継続分)

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
	円程度)を措置することにより、支援を行う。また、新たな研究プロジェクト構築に向け、プロジェクト形成支援のための予算措置を含めた取組を行う。	表者：システム工学部和田俊和教員、予算額：10,000千円)」を採択した。 また、プロジェクト形成支援として「中山間地域における地域共生型 PPA の導入可能性調査（代表者：システム工学部吉田登教員、予算：1,248 千円）」及び「ドローンを利用した果樹の樹形計測と VR 空間への再構築および剪定学習支援への応用（代表者：システム工学部曾我真人教員、予算：5,000 千円）」の 2 件を採択した。		計 1 件
令和 5 年度	前年度に構築した研究プロジェクトについて、引き続き学内大型研究予算等による支援を行う。また、新たな研究プロジェクト構築に向け、プロジェクト形成支援のための予算措置を含めた取組を行う。	令和 4 年度に採択した「ニーズドリブン型研究支援プロジェクト」である「DNN の組み込み実装に基づく産業・教育ニーズに応える AI・機械学習技術の開発（代表者：システム工学部和田俊和教員 令和 5 年度予算額：8,190 千円)」について、引き続き支援を行った。また、新たな研究プロジェクト形成支援として、大型研究費助成 1 件、萌芽的個別研究支援 7 件、特別研究支援（特別研究支援 4 件、研究マッチング支援 1 件、研究機器修繕支援 4 件、研究成果公表支援 2 件）を実施した。	Ⅲ	

<評価指標>

【9-1-2】共同研究・受託研究等を 550 件以上実施する。（第 4 期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和4年度	科研費に採択された研究テーマ等から年間を通して集中的に支援する研究者を選定し、研究シーズの発信などの支援を積極的に行うとともに、研究シーズ集の在り方について検討し、内容を改訂することで情報発信を強化し、共同研究及び受託研究件数の増加を図る。	科研費その他外部資金の獲得実績に基づき、教育学部山口真範教員、システム工学部和田俊和教員、坂本隆教員を選定し、展示会への出展や研究費措置等の支援を行った。 また、研究シーズ集へ掲載した個々の研究シーズへSDGs マークを付与するなど、シーズ利用者に対し研究内容を積極的にアピールし、情報発信を強化することにより、共同研究及び受託研究件数の増加を図った。 さらに、学内競争的研究資金を助成した研究課題のうち発展が見込める5件の研究課題について、進捗の調査を行った上で追加の研究費支援を行った。 評価指標に掲げている、共同研究・受託研究等実施件数の令和4年度実績は85件。	Ⅲ	令和4年度 85件 令和5年度 75件 計 160件
令和5年度	引き続き、集中的に支援する研究者を選定して積極的に支援するとともに、産学連携イノベーションセンターのWeb ページの内容を検討し、発信内容を更新することで情報発信を強化し、共同研究及び受託研究件数の増加を図る。	外部資金獲得実績等により、システム工学部宇野和行教員を選定し、イノベーション・ジャパン 2023、MOBIO 合同シーズ発表会、Challenge 万博への各出展を通じて支援を行った。 本学研究者の研究シーズをより多くの人にアピールするために、都市活力研究所・関西イノベーションイニシアティブが開設するホームページへ研究シーズ集データを掲載した。また、産学連携イノベーションセンターのリーフレットを刷新し、積極的に情報発信を行った。	Ⅱ	

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
		上記のとおり外部資金獲得のための取組を実施しているが、評価指標の達成が難しい状況のため、令和6年度以降、研究戦略推進本部（仮称）の設置等を通じた取組のさらなる強化を図る。		

<評価指標>

【9-1-3】和歌山大学からの起業数を6件以上とする。（第4期中期目標期間中 合計）

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
令和4年度	アントレプレナーシップ関連科目（基礎、実践）を新規開講する。 アントレプレナーシップデザインセンター準備室を設置する。	アントレプレナーシップ関連科目として「アントレプレナーシップ基礎」及び「アントレプレナーシップ実践」の2科目を開講した。 また、産学連携イノベーションセンター内に、アントレプレナーシップデザインセンター準備室を設置し、令和5年度のセンター発足に向けて準備を進めた。 評価指標に掲げている、和歌山大学からの起業数の令和4年度実績は1件（和歌山大学発ベンチャー称号を授与）。	Ⅲ	令和4年度 1件 令和5年度 5件 計 6件
令和5年度	アントレプレナーシップ関連科目（発展、インターンシップ）を新規開講する。 アントレプレナーシップデザインセンターを設置する。	アントレプレナーシップ関連科目「アントレプレナーシップ実践」において、きのくに信用金庫との協定に基づき、和歌山県内企業と共に新規事業構想を立案する『『未来事業』共同デザインプロジェクト』を実施した。	Ⅳ	

年度	取組予定	実施状況	自己 評価	定量的評価指標実績
		本プロジェクトの実施経験を踏まえ、アントレプレナーシップ教育型インターンシップの実施に向け、構想構築に着手した。 さらに「アントレプレナーシップ発展」を新規開講し、学生の起業マインド醸成を図った。 令和5年4月にイノベーションイニシアティブ基幹に「アントレプレナーシップデザインセンター」を設置し、アントレプレナーシップの醸成に取り組んだ。 アントレプレナーシップ教育への学外からの参画として、同年10月より、きのくに信用金庫から出向者1名を受け入れ、体制強化を図った。 これらの取組の成果として、下記のとおり5件の法人設立があり、令和4年度実績1件と合わせると、評価指標（第4期中期目標期間中の起業数6件以上）を達成した。 ・経済学部生1件 ・システム工学部生2件 ・システム工学部卒業生1件 ・経済学研究科修了生1件		